



先人達の多大な苦勞により確保された農業用水の恩恵を未来に引き継ぐ活動 吉野川分水～この水を未来に引き継ぐ～

新井 宏 巳

大和平野では昔から深刻な水不足に悩まされ続け、今日の吉野川分水の姿に至るまで300年の年月と先人達の苦勞を要した。しかし、都市化混住化の進展、農家の高齢化等により農家だけでは農業用施設の維持は困難なものになってきている。このような状況から、農業用施設を利用した太陽光発電や水源地域と共同で行う「水のつながり」を軸とした農山漁村の活性化を目指した活動を実施している。

キーワード：吉野川分水、水のつながりプロジェクト

1. はじめに

奈良県の大和平野は、古来より深刻な水不足に悩まされ続け、昭和27年「十津川紀の川総合開発事業」により、吉野川の水が大和平野に分水された。吉野川分水が通水されてから50年以上が経過し、都市化混住化が進展する大和平野では、安定的に供給されてきた農業用水への感謝の気持ちと水不足であった記憶は軽薄化され、農家だけでは農業用施設の維持は困難なものとなり、「維持管理の軽減対策」と「地域一体となった管理体制の整備」が必要となってきた。そこで、農業用水利施設を利用した農山漁村と都市住民との地域間交流を図り、新たな管理体制の構築を行うこととした。

一方、吉野川の水源地域である奈良県川上村は、水源地の村づくりを目指し、「川上宣言」を掲げるなど、精力的に水源環境を保護する様々な取り組みを行ってきた。平成23年3月11日、多くの農業用施設に甚大な被害を出した「東日本大震災」は、安定した営農ができる喜びを思い出すきっかけとなり、平成23年11月26日、大和平野から水源地域への感謝の気持ちとして「おかげ米運動」が実施された。

これを機に、大和平野と水源地域の交流を育み、水でつながった双方の想いを継承し、地域一体となった農山漁村の活性化と持続的経営を目指すため、川上村と共同で「水のつながりプロジェクト」を立ち上げることとなった。

2. 農業用水の恩恵を未来に引き継ぐ活動事例

(1) 太陽光発電

従来より、当区の灌漑排水は通年通水ではなく、夏期のみかつ間断通水による計画となっており、止水中の藻の繁殖に悩まされていた。そこで水路上部に蓋掛けを行うことにより、藻の繁殖を完全に除去することが可能となった。また、蓋掛けを行ったことにより、上部の有効利用が可能となったため、太陽光発電施設を設置し、その売電収入は維持管理費に充当している。この太陽光発電施設を利用した環境学習等を実施することにより農山漁村と都市住民との地域間交流を促し、新たな管理体制の構築を目指している(写真1)。

この活動の実施により、施設の視察や各種イベント等の中で環境学習や普及啓発を行い、農村資源の多面的機能を地域の特色として発信することで、都市住民との地域間交流に役立っている。発電施設を利用した環境学習参加者は、平成27年1,160人、平成28年度1,780人、平成29年度1,480人、平成30年度1,320人、令和元年度1,190人となっている。

(2) 水源地域との共同活動(活動名:水のつながりプロジェクト)

① 田植え・稲刈り・源流体験(小学校交流)

「水をする者」と「水を使用する者」が「水のつながり」を軸とした活動や体験を通じて、それぞれの地域の歴史や魅力、役割などの理解を深める活動となっている。田植え・稲刈り体験では、水源地で生み出された水が大和平野に届いていることを体感し、農業用



写真一 かつらぎ第1, 第2発電所 (奈良県御所市西寺田)

施設の役割と水源地を守る必要性を学習し特に水田の無い水源地域の児童にとっては貴重な体験となっている。また、専門家による「田んぼの生き物観察ミニ授業」を行い、農業用水の多面的な機能についても学んでいる。源流体験では、水源地域の生活や川の生き物観察などの自然開発のための教育（ESD）の観点から、農山漁村を取り巻く環境等について意識を高めるきっかけとなることを期待している。また、これらの活動の実施報告を、教育委員会を通じて奈良県内の全小学校（約200校）に配布、さらに地域住民にも活動の趣旨を直感的に理解できるように、歌「水の旅のはなし」をイメージソングとし、他企画のイベント等で活用し、水のつながりプロジェクト参加者だけでなく、広く啓発できるよう努めている（写真一2）。

②源流トレッキングツアー

吉野川の源流となる川上村三之公原生林を辿る「吉野川分水源流トレッキングツアー」を実施。吉野川分水の水瓶である大迫ダムの見学や、原生林の雄大さや美しさを肌で体感してもらい、農業用施設だけでなく、水を育む森の大切さを学習した。一方、鳥獣被害等により荒廃した森の現状を知ってもらい、トレッキング参加者による間伐チップの覆土作業や鹿避けネット柵の設置等を実施し、森の維持・再生の難しさを体験してもらった。また、その水で育った奈良県産のお

米の美味しさをPRするため、参加者にはお土産として持ち帰っていただくなど、奈良県産米の消費拡大と生産者の意欲向上のきっかけとなることを期待している（写真一3）。

当活動に感銘を受けた方の中には、後日、水源地域で行われた森を再生するボランティア活動に参加する方も出てきており、少しずつではあるが効果が出てきている。

水のつながりプロジェクトの実施により、参加校だけでなく県内の小学校（児童）や地域住民に対しても、農山漁村の維持と活性化、また資源の有効活用について啓蒙できている。



写真一3 源流トレッキングツアー



写真一2 左：田植え体験、右：源流体験

3. 活動取り組みの詳細 (図-1~4)



図-1 水のつながりプロジェクト活動報告書



図-2 下敷き (啓蒙用)



図-3 新聞記事 (稲刈り体験)



図-4 インフラメンテナンス大賞 表彰状と盾

4. おわりに

平成24年度から継続してきた水のつながりプロジェクトは今年度で10周年を迎え、水の恵みを受ける者と水を育む者との交流事業を主としてきたが、今後はそれらを守る多くの人がいることを再認識し新たな情報発信を試みる。昨年度オープンした「吉野川分水歴史展示館」も活用し、農山漁村資源の次世代へより良い継承を目指す。

また、河川の水質改善や地域用水などの農業以外にも多面的な役割を果たしていることを更に多方面へ発信していく。

JCMIA

[筆者紹介]
新井 宏巳 (あらい ひろみ)
大和平野土地改良区
事務局長

